

## English follows Japanese

### アドベントの賛歌：御使いの賛歌 ルカの福音書 2章 8-14節

今日は皆さんと検討したい3つ目のアドベントの賛歌を取り上げます。それはイエスの誕生の時に御使いによって謳われたただの2行の賛歌です。イエスは誕生しました。出産場面にいたのはもちろん母のマリアと義父のヨセフ、そして彼らとともに厩にいた動物たちのみです。そして、ルカの2章に進みイエスの誕生の福音を聞く最初の人たちについて読みます。最初にルカの福音書2章8-14節まで読みましょう。

ルカの福音書 2章8~14節 8. さて、

その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。9. すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。10. 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。11. 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。12. あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」13. すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。14. 「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」

祈りましょう。

節の御使いによって謳われた賛歌が今日の中心です。私たちはこの賛歌が謳われた状況を知る必要があります。その頃ローマ帝国の属州として存在したイスラエルの国家はメシア、救い主の到来を期待していました。彼らが期待するメシアは政治的な救世主でした。彼らは旧約聖書のメシアに関する預言をほぼ誤解していました。そして、その王がやって来てローマ人をイスラエルから追い出し、エルサレムにダビデの王座を再び樹立すると信じていました。彼らが気づかなかったのは、神の王国はイスラエルよりはるかに大きく、神の救いのための御計画はイスラエルの国家の復興よりも大いなるものであったことです。彼らにとりメシアは政治的民族主義的な平和をもたらすのです。それは確かではあります。クリスマスに私たちはイエス・キリストまたはキリストの意味であるメシアは平和を与えるために来られたことを知っています。しかし、その平和は政治的な平和または戦争がないということではありません。成人したイエスは十字架にかかる前に彼が与える平和についてヨハネの福音書14章27節で話されています。ヨハネの福音書 14章27節

わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。世は平和を与えます。ジョン・パイパー師は彼のヨハネ14章27節の説教でこの世は退職金や、健康保険、警察官、軍事力や他の物理的手段で平和を与えると指摘しています。

しかし、イエスはそれらのようなものから来る平和について話されてはいません。主は明らかに私たちの内の霊的平和について話されているのです。ですから、彼はこう言われたのです。あなたがたは心を騒がせてはなりません。

キリストの到来はこの地上の人々に平和をもたらしました。国籍、身分にかかわらず与えられる霊的平和です。これが御使いが謳っていた平和です。御使いの賛歌で気づいていただきたいのは、この平和を経験するためのとても特別な方法があることです。彼らの宣言は平和に焦点を絞って始まってはいません。焦点は神の栄光に置かれています。神の平和は神の栄光を現そうとする者たちにのみ来ます。この世の平和が永続的、長続きしないのは神の主権と神のこの世の支配を認めるのではなく、人間の支配に基づいているからです。つまり、神に栄光を帰すことができているのです。地上の平和が一番の目標ではありません。この世で戦争のない状態の平和のためのさまざまな運動にのめり込んでいる多くのクリスチャンがいることは承知しています。しかしクリスチャンにとり、最優先であり最大の目標は、どんなに頑張っても一時的でしかない戦争のない状態ではなく、永遠に支配し統治される神の栄光です。どの平和のための運動も、戦争反対運動も、正義運動もキリストが与える平和をもたらすことはできません。ですから、どんなに立派な理由であっても、神の栄光を現すこと以上に高い優先度を決して他のことにつけてはいけ

ません。しかし、問題はどうすれば神の栄光を現して、この平和を受けることができるのでしょうか。思い出して下さい。御使いたちは救い主、イエス・キリストが生まれたと言う知らせに回答してこの賛歌を謳っています。彼の誕生の告知に御使いの合唱団が謳って応答するほど彼の誕生は独特な方法で神の栄光を現すのです。ですから、私たちが神に栄光を帰す場合、何がしかの方法で私たちの応答にイエス・キリストが関与する必要があります。興味深いことは、聖書で御使いや天の造られたものが歌う時、それはいつもイエスに対しての応答であることです。イザヤ書6章2-3節は言います。イザヤ書 6章2～3節

2. セラフィムがその上の方に立っていた。彼らにはそれぞれ六つの翼があり、二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでいて、3. 互いにこう呼び交わしていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満ちる。」

ここでイザヤは神が彼を預言者として召しを与え任命された時点で神の栄光の幻を見えています。この幻の中でさえ、三位一体全位格の礼拝の中で明確に御子なる神、イエス・キリストに焦点の中心が当てられている印があります。万軍の主とは旧約聖書を通して神に帰せられた名前です。神が御使いの軍隊の主であるという意味です。全ての終わりに、ヨハネの黙示録19章16節でサタンが最後の戦争で打ち負かされる時、神の軍勢を率いているのは、王の中の王、主の中の主と呼ばれているイエス・キリスト御自身です。ヨハネの黙示録 19章16節その衣と、もものところには、「王の王、主の主」という名が記されていた。

ですから、イエスは文字どおりサタンと罪人たちの最後の審判を指揮する万軍の主なのです。イエスの栄光が地上に満たされるのです。黙示録5章で天の情景を見ます。そこで、礼拝がイエス・キリストに向けられているのを見ます。ヨハネの黙示録 5章13節 また私は、天と地と地の下と海にいるすべての造られたもの、それらの中にあるすべてのものがこう言うのを聞いた。「御座に着いておられる方と子羊に、賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくあるように。」

イエス様こそが王であり子羊であられるお方です。礼拝は神に向かって献げられ、明らかなのは特に救いを与える生贄となった子羊である御子なる神に向けられていました。これは三位一体の聖書的教義または教えが非常に重要なもう一つの理由です。イエスは神である故に、神だけが受けることができる礼拝を受けるのです。

そして、聖書のどの箇所でもそうであるように、御使いたちはこの聖句でもイエス・キリストを羊飼いたちに指し示すことによって神の栄光を現しています。今日の私たちは、イエス・キリストとの関係を通してのみ神に栄光を帰すことが出来ます。イエスを拒絶して神に栄光を帰すことは決して出来ません。イエス・キリストを拒絶していれば神に辿り着こうとするどのような試みも、たとえ何某かの仏教思想の精神面の現存でさえも可能ではありません。神の栄光はイエス・キリストのうちに完璧に現されています。なぜならば、イエスは御自身神であられ、神の人類のための御計画の中心だからです。気づいていただきたいのは、神の栄光を現すためにどのようにイエスと関わらなければいけないかです。私たちはイエスを救い主として関わります。ここ日本でさえも多くの人たちがクリスマスは彼らの頭の中ではキリスト教を始めた歴史的人物、イエス・キリストの誕生を祝うことと認識しています。イエスが彼の教えのためにローマの統治者と墮落したユダヤ人指導者たちの手によって十字架の上で殺されたこともたぶん理解しているでしょう。しかし、それらのことは真に神を認めても、栄光を帰すことも出来ません。ヤコブの手紙で神を信じる心があっても全く救いに導かないことを語る興味深い一節があります。ヤコブの手紙 2章19節 あなたは、神は唯一だと信じています。立派なことです。ですが、悪霊どもも信じて、身震いしています。サタンに追従する永遠の罰を受けると宣告された墮落した御使いたちは救いに関与することはありませんが、彼らそれでも神を信じています。キリストへの信仰は私たちの罪深さと神に栄光を帰すことの欠如に気づかせてくれます。救いに導く信仰の証拠がその罪の悔い改めに見ることが出来ます。次に、神の眼に義とみなされるために、救いを与える信仰はキリストと彼の義、罪のない完全さを受け入れる必要を気づかせてくれます。悔い改めと信仰

無くしてキリストを救い主とすることはできません。クリスマスをどれだけ信じて神に栄光を帰すことは決してできません。

それで、私たちはイエス・キリストを知っています。しかし、それが私たちが神の栄光を現すことができることに対してどう言う意味があるのでしょうか。私たちはローマ人への手紙3章23節にあるように、**すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**と言う生まれ持った性質を持っています。しかし、ガラテヤ人への手紙 3章27節 が言うように、**キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。** 今、私たちはキリストの義にあって生きています。 ですから、私たちは救い主イエス・キリストのようになって人生を生きることによって神に栄光を帰します。どのようにすればよいのでしょうか。私たちがピリピ人への手紙1章 20-21節のパウロのように決心するのです。 **ピリピ人への手紙 1章20～21節 20. 私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように大胆に語り、生きるにしても死ぬにしても、私の身によってキリストがあがめられることです。21. 私にとって生きることはキリスト、死ぬことは益です。**

オズワルド・チャンバース師は彼の有名なデボーション本「いと高き方のもとに」で一月一日の欄でこう言っています。**まるでパウロが、私の決心した目的はいと高き方のために最高の自分であること、その方の栄光のためにベストを尽くすことです、**と言っているようです。その決心の水準に達することは議論や推論ではなく意思の問題です。その時点での絶対的な後戻りすることのない意思の服従です。彼はデボーション本の後半にこう続けています。**他の全ての思いを遮断して、神の御前でこの唯一のことに留まってください。いと高き方のために最高の自分を。私は唯一神のために絶対的に全面的に自分はあることを決心しています。あなたと私が人生で、神の栄光のために自分のベストを、**と言う姿勢を培うことが出来れば、私たちが神の栄光を現すことが出来ないはずがありません。

神に栄光を帰すことの結果は私たちの生活での平和です。思い出してください。冒頭で指摘した御使いたちが謳っている平和とイエスの語られた平和は私たちの周りより私たちの内で起こっていることと関連しています。ですから、パウロは私たちの心の平和をコロサイ人への手紙3章15節で言及しているのです。コロサイ人への手紙 3章15節 **キリストの 平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのために、 あなたがたも召されて一つのからだとなったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。**

イエス・キリストを知り、従う者たちだけが間違いなくこの平和を体験するのです。この事実を御使いたちの謳っている時の歌詞にも見ることが出来ます。**地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように 神は愛であることは真理です。しかし、神の聖さとは、イエス・キリストの義**を通しての関連がない者たちは神の怒りの下にある、つまり、その者たちは神の御心に適っていないということです。ローマ人への手紙1章 18節はキリストにあらず、彼らの罪のうちにいる者たちに対する神の姿勢を述べています。 **ローマ人への手紙 1章18節** **というのは、不義によって真理を阻んでいる人々のあらゆる不敬虔と不義に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。**

これは多くの人たちがクリスマスに聞くメッセージではない事は私も分かっています。私たちは平和のメッセージと神の怒りを結びつけません。しかし、真の正義がなければ、真の平和はあり得ません。これは、人の正義において真実であり、聖なる神に対する私たちの罪のための究極的正義でも真実です。神との平和はその罪の代償を支払ってからのみ得ることが出来ます。イエスは神の怒りを受けられました。彼は私たちの罪の代償を支払われたのです。平和は神が私たちの罪を見逃されたから来るものではありません。その罪の代償が既に支払われたからです。父なる神の御怒りを神の御子御自身が私たちの代わりに受けることによって正義が得られたのです。イエスを私たちの救い主として受け入れる時私たちに神との平和があるのです。イエスを私たちの主として従順に従うと私たちの周りの世が嵐のようであったとしても内なる平和がもたらされます。使徒パウロはこの平和をこの陳述で説明しています。 **ピリピ人への手紙 4章11節** **乏しいからこう言うものではありません。私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました。**

パウロは正確にはこの陳述ができるような楽な生活をしていたわけではありません。彼は船の難破、投獄、鞭打ち、憎悪を直面しました。それにもかかわらずどんな状況下でも、彼は満足することを覚えたのです。彼には平和がありました。今日、あなたには平和がありますか。いつも平和がありませんか。最初にこう自問してください。私は本当にイエスを知っているでしょうか。私はイエス・キリストを主として救い主として従うことによってのみ来る人生を変える救いを経験したでしょうか。もしそうであっても、まだ私の人生に平和がなければ、次の問いは、私は主に従っているでしょうか。神はイエス・キリストゆえにあなたに満足されています。あなたの行いは世の創造の前からあなたの救いを計画されたお方の栄光を現していますか。私たちは御使いたちが貧しい羊飼いたちにイエスの誕生を宣言した賛歌を反映しているでしょうか。いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。祈りましょう。

## The Songs of Advent: The Angel's Song Luke 2:8-14

Today we come to the third song of Advent that I want to examine. It is a simple two line song that is sung by an angel choir at the birth of Jesus. Jesus has been born. The only people there to see the birth are of course mom, Mary and stepdad, Joseph and whatever animals happened to be in the animal stable with them. Then we come to Luke Chapter 2 and read about the first people to hear this good news of Jesus' birth. Let's read from verse 8 through verse 14 of Luke 2. **8 And in the same region there were shepherds out in the field, keeping watch over their flock by night. 9 And an angel of the Lord appeared to them, and the glory of the Lord shone around them, and they were filled with great fear. 10 And the angel said to them, "Fear not, for behold, I bring you good news of great joy that will be for all the people. 11 For unto you is born this day in the city of David a Savior, who is Christ the Lord. 12 And this will be a sign for you: you will find a baby wrapped in swaddling cloths and lying in a manger." 13 And suddenly there was with the angel a multitude of the heavenly host praising God and saying, 14 "Glory to God in the highest, and on earth peace among those with whom he is pleased!"** Let's pray.

The focus today is on verse 14, the song that is sung by the angels. But we needed to see the context in which this song was sung. The nation of Israel which at that time existed as a state under the Roman Empire was expecting a Messiah, a Savior. But their expectation was that this Messiah would be a political Savior. For the most part they had misunderstood the Old Testament prophecies regarding this Messiah and believed that there was a king coming who would kick the Romans out of Israel and reestablish David's throne in Jerusalem. What they did not realize was that God's kingdom is much bigger than Israel and God's plan was for a salvation far greater than a restoration of national Israel. For them the Messiah would bring peace, but in a political nationalistic sense. And it is true...at Christmas we recognize that Jesus the Christ, or Messiah, which is what Christ means, did come to give peace. But that peace is not a political peace or an absence of war in a physical sense. Jesus as an adult right before going to the cross discussed peace that he gives in [John 14:27. 27 Peace I leave with you; my peace I give to you. Not as the world gives do I give to you. Let not your hearts be troubled, neither let them be afraid.](#) The world does give peace. John Piper points out in his sermon on John 14:27 that the world gives peace through retirement accounts, health insurance, police officers, military strength and other physical means.

But Jesus is not discussing any of the peace that comes through those types of things. He is clear that the peace he is talking about is a spiritual peace inside of us. This is why he says, [Let not your HEARTS be troubled.](#) Christ's coming brought peace for people on this earth – spiritual peace that would be available to all regardless of nationality or status. This was the peace that the angels were singing about. But, I want us to see in the angel's song that there are very specific ways to experience this peace. Their statement does not start out focusing on peace. The focus is on the glory of God. True peace will only come to those who seek to glorify God. The reason this world's peace is not permanent or long lasting is because it is based on human control, rather than recognizing God's sovereignty and his control in this world. In other words, it fails to give God glory. Peace on earth is not the highest goal. God's glory is the highest goal. I know there are many Christians that are focused heavily on various movements for peace in this world, with peace typically meaning "the absence of war." But for a Christian the highest priority, the greatest goal, is not a lack of war that is temporary at

best, but the glory of God who rules and reigns for eternity. No peace movement, anti-war movement, or justice movement can bring the peace that Christ offers, so no matter how noble the cause, we should never place those priorities over the priority of glorifying God.

So the question has to be, how do we glorify God and receive this peace? Remember the angels are singing this song in response to the message that a Savior, Jesus Christ, is born. His birth glorifies God in such a unique way that an angel choir sings in response to his birth announcement. So, if we are going to glorify God, then it has to involve our response to Jesus Christ in some way. What is interesting is that in Scripture, every time you see a reference to angels or heavenly beings of any sort singing, it is in response to Jesus. Even in the Old Testament it is Jesus. [Isaiah 6:2-3](#) says, [Above him stood the seraphim. Each had six wings: with two he covered his face, and with two he covered his feet, and with two he flew. And one called to another and said: "Holy, holy, holy is the Lord of hosts; the whole earth is full of his glory!"](#) Here Isaiah is seeing a vision of God's glory at the point where God is calling and commissioning him as a prophet. Even in this vision, though, there are signs that point to the focus of worship being God the Son, Jesus Christ specifically, as well as the entire Trinity. LORD of hosts is a name ascribed to God throughout the Old Testament. It means God is the Lord of armies. At the end of everything at the final battle where Satan is defeated in the book of Revelation, the one leading God's army is Jesus Christ himself, who is described as King of Kings and Lord of Lords in [Revelation 19:16](#). So, Jesus is literally the LORD of hosts leading the charge to final judgement of Satan and sinners. It is his glory that fills the earth. In Revelation 5, we see a picture of Heaven, and what we see is worship being directed towards Jesus Christ. [Revelation 5:13](#) says, [And I heard every creature in heaven and on earth and under the earth and in the sea, and all that is in them, saying, "To him who sits on the throne and to the Lamb be blessing and honor and glory and might forever and ever!"](#) It is Jesus who is both the king and the lamb. The worship is directed towards God, and specifically it seems clear that it is directed to God the son who was the lamb, the sacrifice, that provided salvation. This is another reason why the Biblical doctrine or teaching of the Trinity is so important. Jesus is God because he receives the worship that only God can receive.

So, like everywhere else in the Scripture, the angels here in this passage are glorifying God by pointing the shepherds to Jesus Christ. For us today, we can only glorify God through our relationship with Jesus Christ. You cannot reject Jesus Christ, and glorify God in any way. Any attempt to reach God or even a spiritual plane of existence in some sort of Buddhist thought is not possible if you reject Jesus Christ. God's glory is perfectly displayed in Jesus Christ, because he is God himself, and the focal point of God's plan for humanity. Notice too, how we have to relate to Jesus in order to glorify God. We relate to him as Savior. There are plenty of people even here in Japan who will recognize that Christmas celebrates the birth of Jesus Christ, the historical figure who started, in their minds, the Christian religion. They will even likely understand that he was put to death for his teachings by dying on a cross at the hands of Roman rulers and corrupt Jewish leaders. But none of that truly recognizes and glorifies God. In the book of James, there is an interesting verse that talks about a belief in God that doesn't lead to salvation at all. [James 2:19](#) says, [You believe that God is one; you do well. Even the demons believe—and shudder!](#) There is no possible way that demons, fallen angels who follow Satan and are condemned to eternal punishment have any part in salvation, and

yet they believe in God. Faith in Christ that results in salvation is a faith that one, recognizes our sinfulness and lack of giving glory to God, which is seen in repentance of that sin. And two, saving faith recognizes our need to accept Christ and his righteousness, or sinless perfection, in order to be found righteous in God's sight. Without repentance and faith that makes Christ your Savior, you can believe in Christmas all you want and never bring glory to God.

So, we know Jesus Christ. But what does that mean for our ability to glorify God? We no longer live life as a sinner characterized by [Romans 3:23](#). All have sinned and fall short of the glory of God. But now we live in Christ's righteousness as [Galatians 3:27](#) says, for all of you who were baptized into Christ have clothed yourselves with Christ. So, we give glory to God by living a life characterized by being like our Savior Jesus Christ. How do we do that? We determine as Paul did in [Philippians 1:20-21](#), as it is my eager expectation and hope that I will not be at all ashamed, but that with full courage now as always Christ will be honored in my body, whether by life or by death. 21 For to me to live is Christ, and to die is gain. Oswald Chambers in his famous devotional book, *My Utmost for his highest*, says the following about this verse in the section for January 1. It's as if Paul were saying, "My determined purpose is to be my utmost for His highest— my best for His glory." To reach that level of determination is a matter of the will, not of debate or of reasoning. It is absolute and irrevocable surrender of the will at that point. He also continues later in the devotional, Shut out every other thought and keep yourself before God in this one thing only— my utmost for His highest. I am determined to be absolutely and entirely for Him and Him alone. If you and I can cultivate this attitude in our lives, "my best for His glory", then we cannot fail to bring God glory.

The result of bringing God glory is peace in our lives. Remember, I began by pointing out that this peace described by the angels and spoken of by Jesus is more related to what is happening inside of us than around us. This is why Paul speaks of peace in our hearts in [Colossians 3:15](#) And let the peace of Christ rule in your hearts, to which indeed you were called in one body. Only those who know and obey Jesus Christ can really experience this peace. We see this even in the words of the angels when they sing, on earth peace among those with whom he is pleased! It is true that God is love, but God's holiness means that those who are not related to him through Jesus Christ's righteousness are under his wrath, in other words, he is NOT pleased with them. [Romans 5:1](#) describes his attitude towards those who are without Christ and still in their sin. For the wrath of God is revealed from heaven against all ungodliness and unrighteousness of men, who by their unrighteousness suppress the truth.

I know that this is not the message that most people hear at Christmas. We don't associate God's wrath with the message of peace, but without true justice, there is no real peace. This is true of human justice and also true of ultimate justice for our sin against a holy God. Peace with God can only be obtained by the price being paid for that sin. Jesus took God's wrath—he paid that price for our sin. Peace doesn't come by God overlooking our sin, but because that sin has already been paid for. Justice was obtained on our behalf by God the Son himself taking God the Father's wrath on himself. When we accept him as our Savior, then we have peace with God. And following him as our Lord in obedience brings us inner peace no matter how much the world around us may resemble a storm. The apostle Paul explains this peace in the statement "I have learned

in whatever situation I am to be content.” [Philippians 4:11](#). Paul was not exactly living an easy life to make this statement. He faced shipwrecks, imprisonment, beatings, hatred. Yet in all those situations, he was content. He had peace! Do you want that peace today? Are you finding yourself constantly not at peace? Then first ask yourself, do I really know Jesus Christ? Have I experienced the lifechanging salvation that comes from following Jesus Christ as Lord and Savior. If that is true, and there is still a lack of peace in my life, then the question should be, “am I obeying the Lord?” God is pleased with you because of Jesus Christ. Are your actions bringing glory to the one who planned your salvation from before the foundation of the world. Do we reflect the song of the angels who proclaimed the birth of Jesus to a bunch of humble shepherds? **Glory to God in the highest, and on earth peace among those with whom he is pleased!** Let’s pray.